

株価チャートの「出来高」の見方と使い方を解説！安値圏で出来高が急増すれば株価が上昇するサイン、高値圏での出来高急増は株価が天井を打つ可能性も！  
株価チャートの「出来高(できだか)」の見方と使い方を解説！

「出来高」は、株価チャートの下の方にある“棒グラフ”のことで、その株が売買された取引量を示します。ただし、実際に株を売買する際、この出来高をどう活用すればいいのか、よくわからないという株初心者は少なくないのでは？

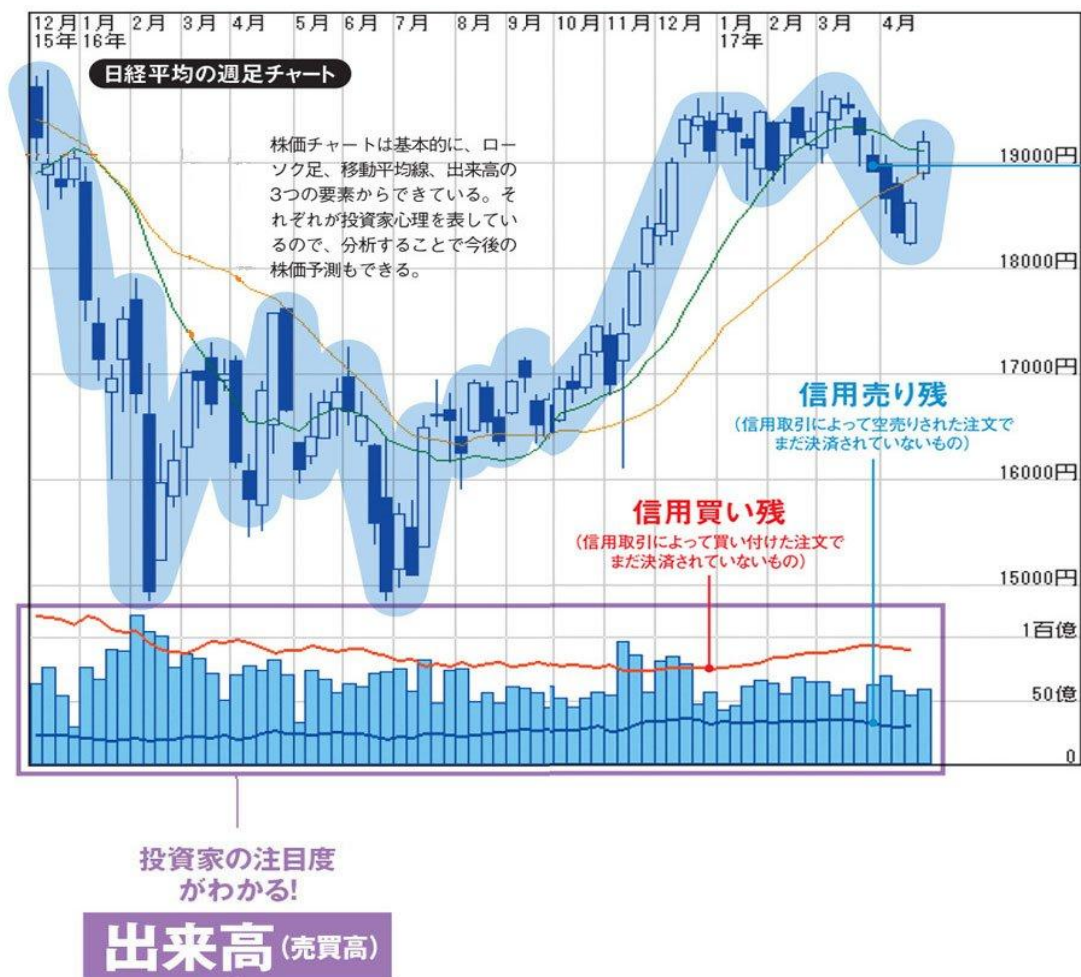
ですので、今回は「出来高」を活用して、買い時・売り時をどのように判断するかについて、わかりやすく解説していきますね。

投資家の注目度がわかる「出来高(売買高)」とは？

**「出来高(できだか)」は「売買高」ともいい、その株が売買された取引量**を表します。株価チャートでは、**下のほうに“棒グラフ”**で表されています。

株価チャートが日足ならその日、週足ならその週の株価や状況で、売る側と買う側の双方からたくさんの希望者が出てくると、取引が活発化して、出来高の棒グラフも大きくなります。

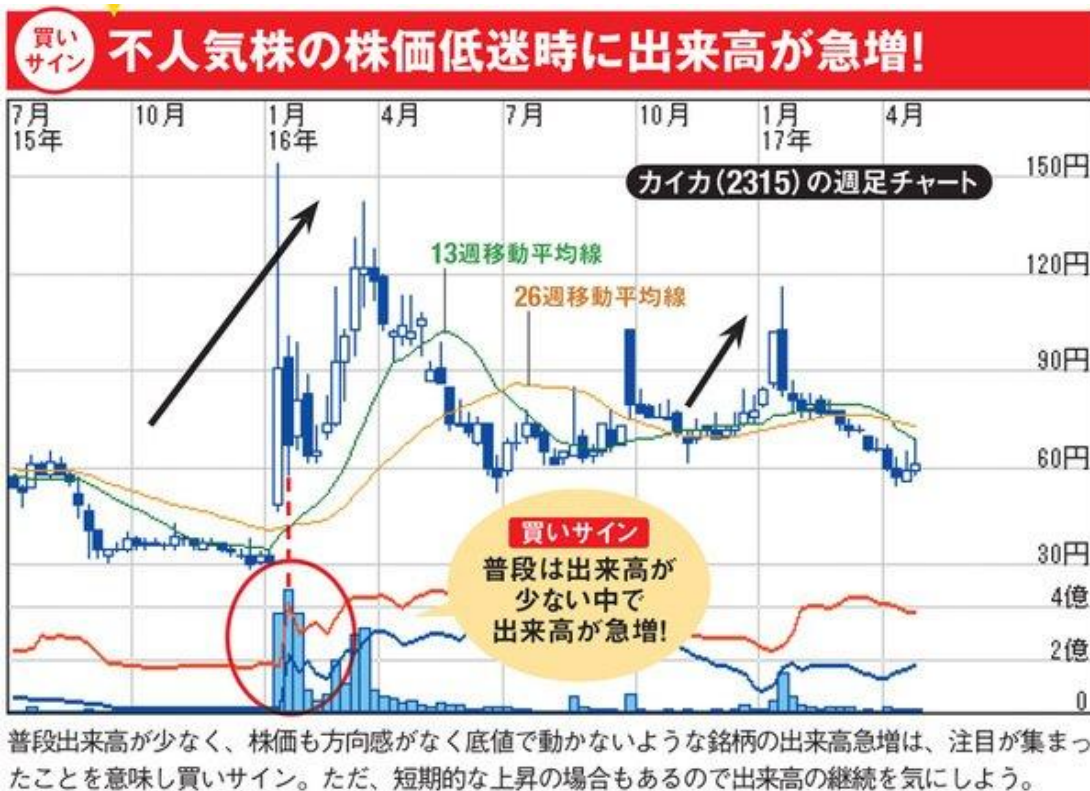
反対に出来高のグラフが小さいときは、誰にも見向きもされていない状態、ということになります。つまり**出来高は、投資家の注目度の高さを表すもの**なのです。



出来高が「安値圏」で増えれば買いのサイン！  
出来高の「高値圏」での急増はピークを付ける可能性大

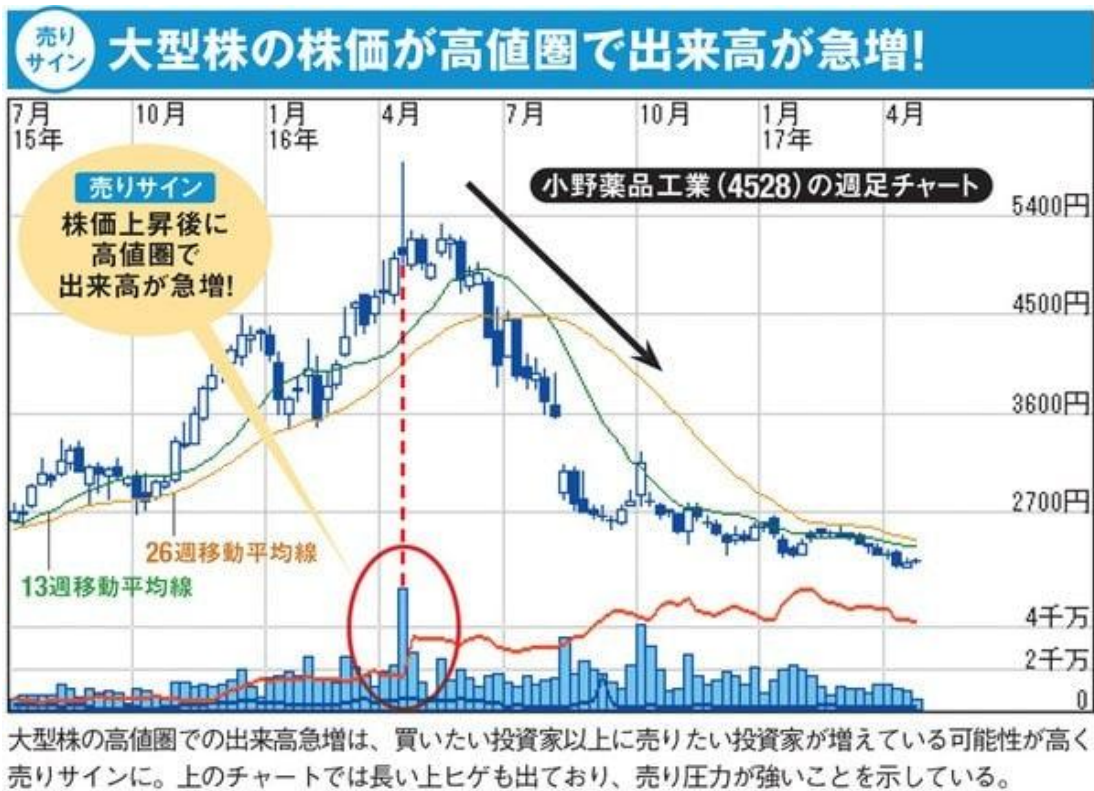
出来高を見れば投資家の注目度がわかると言いましたが、**出来高の急増や急減だけでは、売買の判断をすることはできません。出来高は、株価の動きと一緒に見る必要があります。**

例えば、**不人気株で、株価の動きがない銘柄の出来高が安値圏で急増した場合は、買いサイン**になります。普段注目されない株の出来高が増えるということは、何らかの材料が出て急に注目が集まり、買いたい人が殺到していることを意味するからです。ただし、上昇が一過性の可能性もあるので注意しましょう。



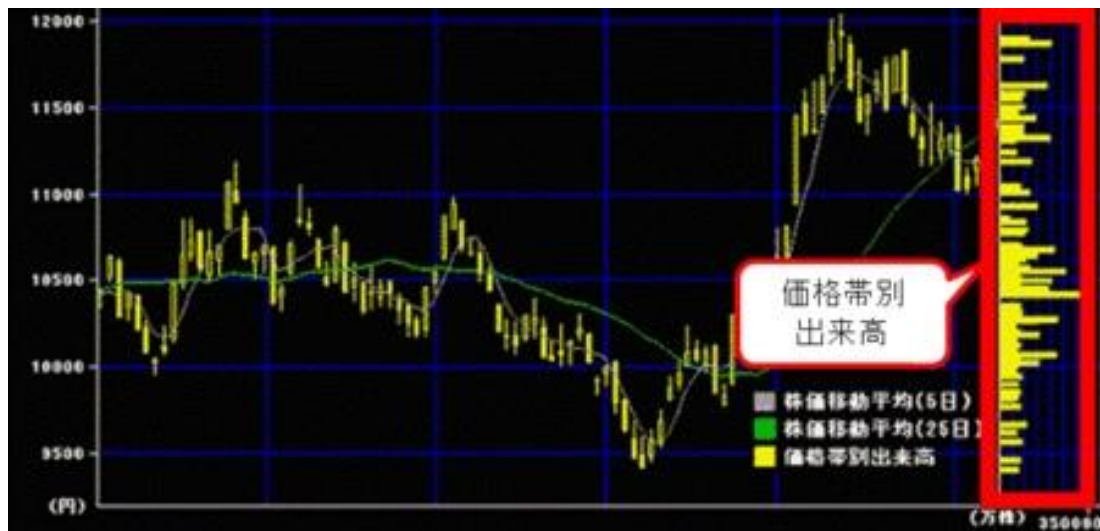
一方で、**大型株の株価が高値圏で出来高が急増した場合は、要注意**。買いたい人がいる一方で、利益確定の売りもたくさん出ていて、**株価がピークを付ける可能性が高い**からです。

このように出来高が安値圏と高値圏のどこで増加しているかによって、売買の判断は異なってきます。ですから出来高を売買の判断に使う際は、株価の動きにも注目するようにしましょう。



「価格帯別出来高」にも注目！  
「買い」と「売り」が入りやすくなる水準がわかる

「出来高」を示すグラフには、価格帯別に過去の累計出来高を表示するものもあります。これは「**価格帯別出来高**」と呼ばれています。



価格帯別出来高で、**累計出来高が膨らんでいるところは**、多くの人がこの価格帯で買ったということで、**株価がその水準まで上昇してくると「売り」が出やすくなる**傾向があります。一方で、**株価がその水準まで下落してきた場合は、「買い」が入りやすくなります。**

つまり、価格帯別出来高が膨らんでいるゾーンは、株の売買をする際に、非常に重要な節目になるわけです。

例えば、**楽天証券**のトレードツール「MARKETSPEED」や **SBI証券**の「株アプリ」を活用すると、それぞれの銘柄の「価格帯別出来高」を簡単にチェックすることができます。株の「売り時」「買い時」を見極めるときに、ぜひ「価格帯別出来高」も活用してみましょう！





### 【チャートの見方「出来高」のまとめ】

- (1) 出来高の急増は、株価の「底値」にも「ピーク」にもなる！
- (2) 株価の動きがなかった不人気株の出来高が急増したら注目！
- (3) 株価が上昇した後に出来高が急増したら、買ってはいけない！
- (4) 価格帯別出来高の膨らんでいるゾーンは、株を売買する際の重要な節目！